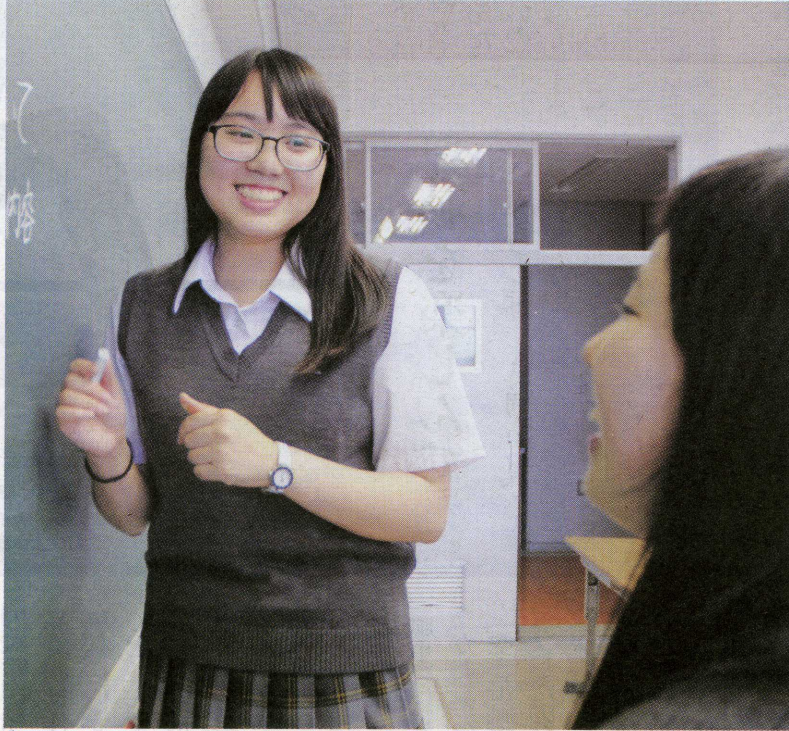


大好き、和風スクールライフ

ベトナム出身の高校生 ダン・トラン・タオ・ニーさん（鹿嶋市）

鹿嶋市の鹿嶋学園高校2年生のベトナム人留学生ダン・トラン・タオ・ニーさん（16）は、日本に暮らして1年半。「この国と鹿嶋が、ぐんぐん好きになっていきます」

日本語をよどみなく話し、今春から親の仕事の関係で3歳で初来日。



生徒会の仲間と打ち合わせするダンさん

らは、同校への留学生では初となる生徒会長を務めている。クラスメイトらと過ごす様子は、外国人女子ということをおぼろげに忘れるほど自然体だ。



以後、何度もベトナムと日本を往き来した。

留学は、日本の建築技術を勉強して母国で生かしたいという夢への一歩。それだけに向学心は旺盛だが、留学当初、日本の高校生が勉強や部活動などへ向かうきまじめさに、「これでいいの?」と戸惑ったことも。

ベトナムの高校生もまじめだが、中学生だったダンさんがあこがれていた高校生活は、「楽しい青春そのもの。青春といえはプロムです」と。プロムとは、高校卒業記念の盛大なダンスパーティーで、ベトナムのどの高校でも行われるものだという。プロムで着るドレスは1年掛けて考えられます。予行練習のようなパーティーも何度も開かれるという。



「青春を楽しもうよ」と、皆にパーティー開催を提案したこともあったというが、反応は今一つ。落胆もしたが、今はその理



文化祭に合わせて作ったオブジェと仲間たち

由が分かっている。

「日本には独得の青春の喜びがあるんですよ。みんな、日常的な小さなことに感動して幸せになれる」

例えば、「つらい受験勉強や部活動の練習の裏の連帯感。好きな人と一緒に、桜の花など季節の風景を楽しむことや、それを夢見ておしゃべりする」も。



6月に行われた文化祭は、「日本版のプロムだと思って取り組んだ」。そこでダンさんが望んだのは、ステージに立つことではなく裏方だった。

開催前は連日、仲間と学校に居残って部活動しながらに準備作業。「宝物のような時間でした」

ア137 I BARAKI 外国人女子

⑤

「青春を楽しもうよ」と、皆にパーティー開催を提案したこともあったというが、反応は今一つ。落胆もしたが、今はその理